

第3学年2組 社会科学習指導案

2 日 目

平成25年 2月7日(木) 公開授業Ⅱ
2月8日(金) 公開授業Ⅰ
会 場 2階-②教室
授業者 教諭 大矢 和憲

1 単元名 「進め！昔の暮らし調査隊」－新潟の冬の道具と暮らし－

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領3学年及び4学年の内容(5)アに準拠して設定したものである。
本単元の目標は次のとおりである。

昔の道具やそれらを使っていたころの暮らしの様子を調べ、昔の人々の生活の知恵と工夫や地域の人々の暮らしの変化が分かり、それらが今の自分たちの生活につながっていると考えることができる。

本単元では、「古くから残る暮らしにかかわる道具」として、新潟の冬には欠かせない暖房器具を取り上げ、道具の様子やそれらの使い方などを具体的に調べさせる。また、「それらを使っていたころの暮らしの様子」については、実際に昔の道具を観察・体験させたり、博物館の人や家族に、当時の暮らしの様子についての話を聞くことを通して、当時の暮らしの様子を調べさせる。昔の対象とする時代は、昭和10年代(約70年前)、昭和40年代(約45年前)である。

この時期、どの家庭でも様々な暖房器具を使って、寒い冬を暖かく過ごそうと工夫している。室内では、ファンヒーターやこたつ、湯たんぽ、外に出掛けるときには使い捨てカイロを使うなど、子どもにとっても暖房器具はたいへん身近で、冬の自分の生活に欠かせない物である。

昭和30年代まで、新潟市の家庭では、まだ火鉢やこたつ、行火など、炭火を使った暖房器具が一般的に使われていた。昭和40年代から、電気やガス、灯油が一般家庭に普及し、それに伴って石油ファンヒーターなどの暖房器具が広く普及したことで、より便利で暖かく過ごせるようになり、今ではそれが当たり前になっている。子どもは、今のように電気やガス、灯油が使えなかった頃、人はどのように暖をとっていたのか知らないため、昔の暖房器具や人々の暮らしの様子に問題意識をもって追究することができる。

また、昔と今の暖房器具を比べてみると、熱源は変わっていても、今もほとんど形を変えずに使われている暖房器具がたくさんある。昔も今も暖かく過ごしたいという願いは同じで、昔の人々の知恵や工夫が今の私たちの生活にも息づいているのである。

これらのことから、今と昭和40年代、昭和10年代の新潟の家庭の暖房器具を取り上げ、今から昔へと暖房器具と暮らしの様子の変遷を遡って学習していく。こうすることで、昔も今と同じような暖房器具があり、人々が熱源と道具を工夫して暖かく過ごそうとしていたことや、そのような昔の人々の知恵や工夫が今の自分の生活につながっていることを実感できると考え、本単元を設定した。

3 本単元で目指す姿とその姿にするための創造的思考力

本単元では、昔の暖房器具と人々の暮らしの様子に見られる知恵や工夫について、今の自分の生活を基に考え、事実を調べることを通して、**昔の人々(今から70年前の人々)の知恵や工夫を、自分の生活と関係付けてとらえる子ども**を目指す。本時においては、「昔の人たちも火鉢やこたつ、行火を使って、今と同じように暖かく過ごそうとしていたんだ。いろいろな道具で炭を大切に使ったり、危なくないように工夫したりして、昔の人の知恵や工夫はすごいな」と考える姿である。

目指す子どもの姿にするためには、子どもが、今と昔の暖房器具と暮らしの様子の共通点や相違点に気付くことができるようにしなければいけない。そのためには、昔の人々がどのような暖房器具を使っていたのかについて、生活者としての自分の認識や経験を基に、熱源と暖房器具の工夫について仮説を立てる場面と、子どもが実際に昔の暖房器具と暮らしの様子について調べ、分かったことや考えたこと、思ったことをまとめる場面が大切である。そこで、前者をもち出しの場面、後者を結び付けの場面として設定する。

もち出しの場面で大切にしたい思考の方法は、**仮定する思考の方法**である。子どもは、昔が今よりも寒かったことや、今も45年前も同じような暖房器具があったことから、70年前の人々も自分たちと同じように暖房器具を使っていたと仮定して考え始める。そこで、もしも暖房器具を使っていたならば、どのような熱源を使い、どのような工夫をして暖かく過ごそうとしていたのかということ、生活者としての認識や経験を引き出して、具体的に考えさせる。

また、結び付けの場面では、実際に炭を使った昔の暖房器具と暮らしの様子について、生活者としての自分の認識や経験を基に考え、事実を調べた子どもに、これまでの学習で分かったこと、考えたこと、思ったことを問うことで、**帰納的に見る思考の方法**を促し、学びを総合して説明させる。

こうして子どもが、今の暖房器具や自分の暮らしという**生活者としての自分の認識や経験**を基に、昔の暖房器具や暮らしの様子について考え、調べて分かった**昔の人々の知恵や工夫と今の自分の生活**とを結び付けてとらえていくことが、本単元における創造的思考力である。

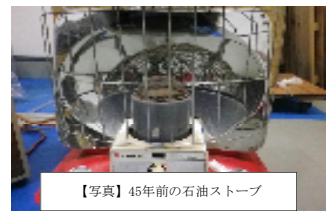
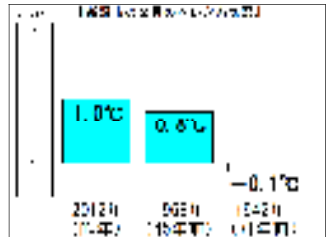
4 指導の構想【2日目】

前時の学習で、子どもは昔（71年前）の人々が、今と同じようにこたつや行火を使って暖かく過ごそうとしていたことや、炭を熱源としていたことをとらえている。71年前のこたつと行火のことが分かった子どもは、「他の道具はどうだったのだろうか」と、関心をもっている。そのような子どもに、次の働き掛けを行う。

働き掛け1

2012年/1968年（45年前）/1942年（71年前）の『2月の平均気温グラフ』と、45年前の石油ストーブの写真を提示した後、71年前の新潟市の家庭では、まだ石油ストーブがなかったという事実（歴史博物館の人の話：VTR）を提示し、驚きや疑問からどのような学習問題がつかれそうか問う。

まず、子どもに、前時も提示した『新潟市の2月の平均気温グラフ』を提示する。子どもは、今や45年前と比べて71年前は気温が低かったことから、暖房器具の必要性を感じる。また、45年前に使われていた石油ストーブの写真を提示し、45年前には、石油ストーブが使われていたこと（既習）を確認する。このような子どもに、71年前の新潟市の一般家庭では、まだ石油ストーブが使われていなかったという事実を、歴史博物館の人の話（VTR）で提示する。子どもは、今以上の寒さだったのに、これまでに知っている石油ストーブがまだ使われていなかったことに驚き、「昔の人々はストーブを使っていなかったのだろうか」「どうやって暖かく過ごしていたのだろうか」などと疑問を感じる。そこで、驚きや疑問からどのような学習問題がつかれそうか問い、「石油ストーブがないのに、昔の人たちはどうやって暖まっていたのだろうか」という学習問題を設定させる。このとき、子どもは、「炭を使っていたのではないか」と、学習問題について、既習のこたつと行火の事例（前時の学習）を基に予想し始める。

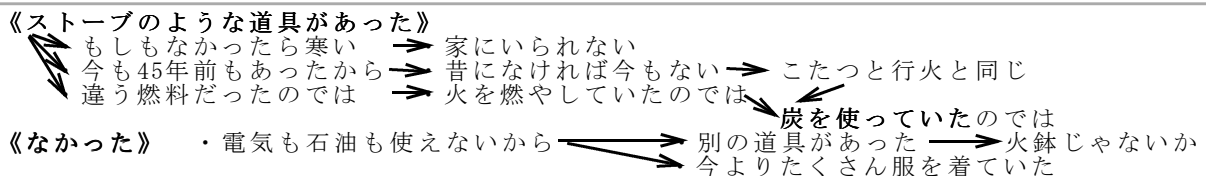


【写真】45年前の石油ストーブ

働き掛け2

学習問題に対する予想を発表させ、問題解決の手掛かりとなる観点を樹形図で分類・整理して板書する。

子どもは、学習問題について既習のこたつと行火の事例（前時の学習）を基に、昔（71年前）も「ストーブがあった」「ストーブはなかった」という観点を予想を始めている。そこで、予想を発表させる際、「どうしてそのように考えるのか」や、「あったとしたらどんな物を使っていたのか」と問い返し、下図のように、子どもの予想の観点を樹形図で分類・整理して板書していく。こうすることで子どもは、「ストーブのような道具があった」という考えを膨らませて、「こたつや行火のように炭を使っていたのではないか」「火鉢を使っていたのではないか」と考える。



働き掛け3

火鉢（実物）を提示し、暖かさを体験させた後、学習問題についての考えを問う。

「炭を使っていたのではないか」「火鉢を使っていたのではないか」と考えている子どもに、火鉢（実物）を提示し、暖かさを体験させる。子どもは、「これなら手が温かくなる」「ストーブみたいだ」などと、生活者としての認識や経験をもち出す。そのような子どもに、学習問題についてどのようなことが言えそうかと問い、学習問題についての考えを発表させる。考えを発表させる際、どうしてそのように考えたのかと根拠を問うことで、子どもは、**仮定する思考の方法**を使って、**生活者としての認識や経験（既習事項）**を基に、「もしも火鉢があったら、ストーブのように暖まることができるから、火鉢を使っていたのではないか」という仮説を立てる。（*「もち出し」の場面）



【写真】火鉢

働き掛け4

どのようなことが分かれば仮説を確かめられそうか問い、必要な情報を集める方法を考えさせる。

仮説を立てた子どもは、仮説が正しいのかどうか確かめたい。そこで、仮説を確かめるためにはどのようなことが分かればよいか問う。子どもは、「火鉢を使って暖まっていたことが分かればいい」などと、仮説を確かめるために必要な情報について考える。そのような子どもに、どうや

って調べたらよいか問い、必要な情報を集める方法を考えさせる。子どもは、「歴史博物館の人に聞いてみたい」と、追究意欲をもって調べる方法を決定する。

働き掛け5

ゲストティーチャーに出会わせ、火鉢の使い方や工夫、効果、炭を使った暮らしの様子を聞いて調べさせる。

歴史博物館の人に聞いて仮説を確かめようとしている子どもを、ゲストティーチャーに出会わせ、火鉢について質問して調べさせる。このとき、実物を観察したり、対話形式で使い方や暮らしの様子を具体的に教えてもらったりする。ゲストティーチャーには、子どもが「炭を使って暖まっていた」という昔の人々の知恵や、「いろいろな道具で、炭を大切に安全に使っていた」という工夫を感じることができるように話をしてもらう。こうして子どもは、昔も今と同じように火鉢を使って暖かく過ごそうとしていたことや、昔の人々が火鉢の炭をいろいろな道具で大切に工夫して使って、暖かく過ごそうとしていたことを一般化してとらえ、学習問題を解決する。



働き掛け6

学習のまとめとして、分かったことや考えたこと、思ったことを問い、説明させる。

学習問題を解決した子どもに、学習のまとめとして、分かったことや考えたこと、思ったことを問い、説明させる。子どもは、**帰納的に見る思考の方法**を使って、これまで基にしてきた**生活者としての自分の認識や経験**と、調べて分かった**昔の人々の知恵や工夫**とを結び付け、「昔の人たちも**火鉢やこたつ、行火**を使って**今と同じように暖かく過ごそうとしていたんだ**。いろいろな道具で炭を大切に使ったり、危なくないように工夫したりして、昔の人の知恵や工夫は**すごいな**」と考え、昔の人々の知恵や工夫を自分の生活と関係付けてとらえる子どもの姿となる。（*「結び付け」の場面）

5 指導計画 全10時間(30Q) ※詳細は、別紙単元カード参照

第1次 今と45年前の冬の暖房器具と暮らしを調べよう（5時間：15Q）

第2次 70年前の冬の暖房器具と暮らしを調べよう（3時間：9Q）

・70年前のこたつと行火について調べたり考えたりする。

【1日目】

・70年前の火鉢について調べたり考えたりする。

【2日目】

第3次 暖房器具と暮らしの変化を考えよう（2時間：6Q）

6 本時の構想 7/10時間（3Q=45分間授業）

(1) ねらい

昔の人々が暖かく過ごすために炭を大切に、いろいろな道具で工夫して使っていたことや、今と同じように道具を使って暖かく過ごそうとしていたことを一般化し、昔の人々の知恵や工夫を自分の生活と関係付けてとらえることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 * 思考の方法	教師の働き掛け
<p>1 今から71年前の新潟市の一般家庭では、まだ石油ストーブが使われていなかったという事実から、学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は今よりも少し寒かった。 ・他の道具のことも調べたい。 ・石油ストーブだ。 ・石油ストーブがなかったら家の中が寒いなあ。 ・今よりも寒いのに、どうしていたのかな。 ・暖かく過ごすためにどんな道具を使っていたのかな <p>【学習問題】 ◎石油ストーブがないのに、昔の人たちはどうやって暖まっていたのだろうか。</p>	<p>※気温のグラフと前時の学習の確認をする。</p> <p>【働き掛け1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○説明「他の道具のことが気になっている人がたくさんいるようですね」 ○石油ストーブの写真を提示する。 ○71年前には、新潟市の家庭ではまだ石油ストーブがなかったという事実を提示する。（歴史博物館の人の話：VTR） ○発問「話を聞いて、驚いたことや疑問に思ったことはありますか」 ○発問「みんなの驚きや疑問をまとめると、どのような学習問題がつけられそうですか」
<p>2 学習問題について考えを交流し、仮説を立てる。</p> <p>【こたつやストーブがあったと思う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もしもなかったら、家の中が寒すぎて生活できない。 ・こたつや行火と同じように、昔は炭を使っていたと思う。 ・炭を使ったストーブがあったんじゃないかな。 ・昨日写真にあった火鉢を使っていたんじゃないかな。 	<p>【働き掛け2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指示「学習問題について、どのように考えますか。予想を発表しましょう」 ※観点を樹形図で分類・整理して板書していく。（指導案2P参照） ○補助発問「どうしてそのように考えたのですか」 ※「炭」「火鉢」という考えが出たら次の働き掛けを打つ

- ・火鉢だ。こんなに大きいんだ。
- ・あんまり熱くない。
- ・手を近づけるとストーブみたいだ。
- ・手が暖かくなる。そうだったけれど、もしも炭がこたつたら火鉢でも使うことができるから、火鉢をストーブの代わりに使っていたら、ストーブのように手を暖めることができるから、火鉢を使っていたんじゃないかな。

〈なかつたと思う〉

- ・今よりたくさん服を着ていたんじゃないかな。
- ・別の道具があったんじゃないかな。

* **「のよう」**のように、「炭を使って」や「ストーブのよう」など、考えていけば、**仮定する思考の方法**を使って、既習事項である自分の認識や経験を持ち出して考えていると判断する。

- 3 考えを確かめるために必要な情報と、情報を集める方法を考える。**
- ・火鉢を使っていたことが分かればいい。
 - ・ストーブの代わりに道具が分かればいい。
 - ・どうやって暖まっていたのか分かればいい。
 - ・歴史博物館の人に聞いて確かめたい。

- 4 ゲストティーチャーに火鉢の使い方や工夫、効果、炭を使った暮らしの様子を聞いて調べる。**
- Q 昔の人たちは、ストーブの代わりに火鉢を使っていたと考えているんですが、どうだったんですか。
- ・やっぱり火鉢を使っていたんだ。
 - ・ストーブとは違うんだ。
- Q どうやって使っていたんですか。
- Q 火鉢には何で粉みたいなのが入っているんですか。
- ・灰が入っていることが大事なんだ。
- Q 火鉢の中にはいっているのは何ですか。
- ・五徳の上でお湯を沸かしていたんだ。すごいな。
- Q 炭がなくなったらどうしていたんですか。
- ・火鉢の炭をこたつや行火に入れて使っていたんだ。すごい知恵だな。
 - ・炭を運ぶ道具もあったんだ。工夫しているな。
 - ・炭は暖かく過ごすためになくてはならないものだったんだ。
 - ・昔の人たちは、炭を大切に、いろいろな道具を使って暖まっていたんだ。

- 5 学習のまとめとして、分かったことや考えたこと、思ったことを説明する。**
- ・昔の人たちは、暖かく過ごすために炭を大切に、いろいろな道具に工夫して使っていたことが分かった。昔の人たちも今（わたし）と同じように、火鉢やこたつ、行火を使って、暖かく過ごすようにしていたんだ。炭をいろいろな道具で使ったり、危なくないよ用に使ったりして、昔の人の知恵や工夫はすごいなあと思った。
- * ここで、のようのように、これまでの学習で考えたことや、調べたこと、分かったこと、自分で考えたこと、**帰納的に見る思考の方法**を使って、昔の人の知恵や工夫と自分の生活を結び付けていると判断する。

- 【働き掛け3】**
- ※火鉢（実物）を提示する。
 - 説明「なるほど。みんなは火鉢を使っているんだね。たんなりかかと考えるんですね。」
 - 説明「これが火鉢です。実際に暖かさを調べてみましょう。」
 - ※順番に火鉢に当たらせてみる。このとき、暖かさを尋ねたり、手を暖めさせたりする。
 - 発問「今、みんなは学習問題についてどのように考えていますか」

- 【働き掛け4】**
- 説明「なるほど。みんなはこのように考えるんですね。本当にそうなのですか。」
 - 発問「どんなことが分かればみんなの考えを確かめられそうですか」「どういう方法で調べたらよさそうですか」

- 【働き掛け5】**
- 説明「今日も何とみんなのために博物館の森さんが来てくれています」
 - ※ゲストティーチャーを紹介する
 - 発問「何か聞いてみたいことはありますか」

- 【GT】**
- ※ゲストティーチャーから対話形式で話をしてもらおう。（質問⇄答え）（火鉢の説明・使い方や工夫、それを使っていたころの暮らしの説明）
 - ※ストーブとの違いについても触れる。
 - ※昔の人々の知恵や工夫が伝わるように話してもらおう。
 - ※当時の暮らしの様子から、火鉢の炭をこたつや行火に使っていたや、炭を運ぶいろいろな道具があったことを教えてもらう。
 - 発問「昔の人にとって、炭ってどんな物だったのでしょうか」
 - 説明「どうですか。学習問題は解決できましたか」

- 【働き掛け6】**
- 発問「みんなはどんなことが分かりましたか。どんなことを考えましたか。どんなことを感じましたか」
 - 指示「最後に、分かったこと考えたこと、思ったことを必ず入れて、学習のまとめをワークシートに書きましよう」「自分でキーワードを決めて書きましよう」

- (3) 評価**
- 昔の人々が暖かく過ごすために炭を大切に、いろいろな道具で工夫して使っていたことや、今と同じように道具を使って暖かく過ごすようにしていたことを一般化し、昔の人々の知恵や工夫を自分の生活と関係付けてとらえることができたかどうかを、ワークシートの記述や発言から評価する。

1 日目

6 本時の構想 7/10時間 (3Q=45分間授業)

(1) **ねらい**
昔の人々が炭を熱源とした懐炉を使って暖をとっていたことを、自分の生活と関係付けてとらえることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 *思考の方法	教師の働き掛け
<p>1 今から70年～80年前には、まだ白金懐炉が一般的に使われていなかったという事実から、学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今から71年前は、もっと寒かったんだ。 白金懐炉は燃料が高かったからほとんど使われていなかったんだ。 今より寒いのに、外に出るときはどうしていたのだろうか。 懐炉はなかったのかな。 <p>【学習問題】</p> <p>◎今よりも寒かったのに、懐炉は使っていなかった(使っていた)のだろうか。</p>	<p>【働き掛け1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2012年/1968年(45年前)/1942年(71年前)の『2月の平均気温グラフ』を提示する。(資料1) ○70～80年前には、まだ白金懐炉が使われていなかったという事実(歴史博物館の人の話(VTR))を提示する。 ○発問「博物館の人の話を聞いて、驚いたことや疑問に思ったことはありますか」 ○発問「みんなの驚きや疑問をまとめると、どのような学習問題がつけられそうですか」
<p>2 学習問題について考え、仮説を立てる。</p> <p>〈懐炉はあったと思う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> もしもなかったら寒い 今も45年前も懐炉があったからあったと思う。 でも、燃料はどうしたのかな。 白金懐炉の燃料とは違う燃料があったんじゃないかな。 火を使っていたんじゃないかな。 でも、火は熱いし持ち運べないんじゃないかな。 やっぱり無理かな 	<p>【働き掛け2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指示「学習問題について、どのように考えますか。予想を発表しましょう」 <p>※観点を樹形図で分類・整理して板書していく。(2P参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○補助発問「どうしてそのように考えたのですか」 <p>※「火を使っていた」という考えが出たら次の働き掛けを打つ</p>

〈なかったと思う〉
 ・別の道具があったんじゃないかな。
 ・今よりたくさん服を着ていたんじゃないかな。

・いや、火が出ていたら危険で熱すぎるよ。
 ・バーベキューで思い出したんだけど、炭を使っていたんじゃないかな。
 ・でも、それじゃあ持ち運べないんじゃないか。
 ・そういえば、使い捨てカイロの中にだつて、炭が入っていたよ。
 ・もしも何かに炭を入れて持ち運べたら、懐炉みたいなどこでも暖かいんじゃないかな。
 ・きつと炭を入れて持ち運ぶ懐炉みたいな道具があったのと思う。

* 仮定する思考の方法を使って、既習事項である自分の認識や経験をもち出して考えていると判断する。

3 考えを確かめるために必要な情報と、情報を集める方法を考える。

- 炭を入れて持ち運ぶ懐炉みたいな道具があったことが分かればいい。
- どんな道具だったかが分かればいい。
- どう工夫をしていたのか分かればいい。
- 歴史博物館の人に聞いて確かめたい。

4 昔の懐炉を観察したり、ゲストティーチャーに聞いたりして、昔の懐炉の使い方や効果を調べる。

- わたしたちは昔も懐炉があったと考えているんですが、懐炉はありましたか。
- 中に炭が入っていると考えているんですけど中はどうなっているんですか。
- やっぱり昔も懐炉があったんだ。
- どうやって使っていたんですか。
- どれくらい暖かかったんですか。(温度・時間)
- 昔の人たちは、炭を懐炉に入れて持ち歩いていました。すごいな。
- 使い捨てカイロと違って、何度も使えて便利だな。
- やっぱり昔の人たちも今と同じように、懐炉を使って暖かく過ごそうとしていたんだ。

5 学習のまとめとして、分かったことや考えたこと、思ったことを説明する。

- 昔の人たちは、中に炭を入れる懐炉を使っていたことが分かった。昔の人たちも今(わたしたち)と同じように、懐炉を使って、暖かくなつて昔の人の知恵や工夫はすごいなあと思った。
- * ここで、どのように、これまでの学習で考えてきたことや、調べて分かったことから、自分で帰納的に見る思考の方法を使って、昔の人々の知恵や工夫と自分の生活とを結び付けると判断する。

【働き掛け3】

- 説明「火を使っていたというのはこういうことかな」
- ※キャンプロの写真を提示する、バーベキューコンロの写真を提示する。
- 説明「そういえば、使い捨てカイロの中身はこのようになっていたね」
- ※使い捨てカイロの写真を提示する。
- 発問「今、みんなは学習問題についてのどのよう考えていますか」
- 補助発問「どうしてそのように考えたのですか」

【働き掛け4】

- 説明「なるほど。みんなはこのように考えるんですね。本当にそうなのですか」
- 発問「どんなことが分かればみんなの考えを確かめられそうですか」
- 発問「どういう方法で調べたらよさそうですか」

【働き掛け5】

- 説明「今日は何と博物館の〇〇さんが来てくれています」
- ※ゲストティーチャーを紹介する
- 発問「何か聞いてみたいことはありますか」
- 【GT】
- ※昔の道具を提示する。(実物)
- ※ゲストティーチャーから対話形式で話をしてもらおう。(質問⇄答え)
- (灰式懐炉の説明・使い方やそれを使っていたころの暮らしの説明)
- ※昔の人々の知恵や工夫が伝わるように話してもらおう。
- ※実際に懐炉を観察させたり、触らせたりする
- 説明「どうですか。学習問題は解決できましたか」

【働き掛け6】

- 発問「みんなはどんなことが分かりましたか。どんなことを考えましたか。どんなことを感じましたか」
- 指示「最後に、分かったこと考えたこと、思ったことを必ず入れて、学習のまとめをワークシートに書きましよう」「自分でキーワードを決めて書きましよう」

(3) 評価

- 昔の人々が炭を熱源とした懐炉を使って暖をとっていたことを、自分の生活と関係付けてとらえることができたかどうかを、ワークシートの記述や発言から評価する。

2 日目

6 本時の構想 8/10時間 (3Q=45分間授業)

(1) ねらい

昔の人々が炭を大切に工夫して使っていたことや、今と同じような道具を使って暖かく過

ごそうとしていたことを一般化してとらえ、昔の人々の知恵や工夫を自分の生活と関係付けてとらえることができる。昔の暖房器具と人々の暮らしの様子に見られる知恵や工夫が分かり、それらを自分の生活と関係付けてとらえることができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 * 思考の方法	教師の働き掛け
<p>1 今から70年～80年前には、電気ストーブや石油ストーブがまだなかったという事実から、学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔は今よりも少し寒かった。 他の道具のことも調べたい。 ストーブとこたつだ。 電気を使った道具や石油ストーブがなかったら家の中が寒いなあ。 どんな道具があったのかな。 今よりも寒いのに、どうしていたのかな。 暖かく過ごすためにどんな道具を使っていたのかな <p>【学習問題】</p> <p>◎電気を使った道具や石油ストーブがないころは、どんな道具を使っていたのだろうか。</p>	<p>※気温のグラフと前時の学習の確認をする。</p> <p>【働き掛け1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○説明「他の道具のことが気になっている人がたくさんいるようですね」 ○説明「みんながよく使っている、こたつとストーブですが、45年前は、このように電気を使った暖房器具や石油ストーブがよく使われていましたね。実は昨日、博物館の方に聞いたら、あることが分かりました」 ○70～80年前には、新潟市の家庭ではまだ電気を使った暖房器具や石油ストーブがなかったという事実（歴史博物館の人の話：VTR）を提示する。 ○発問「博物館の人の話を聞いて、驚いたことや疑問に思ったことはありますか」 ○発問「みんなの驚きや疑問をまとめると、どのような学習問題がくれそうですか」
<p>2 学習問題について考え、仮説を立てる。</p> <p>〈こたつやストーブはあったと思う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> もしもなかったら、家の中が寒すぎて生活できない。 懐炉と同じように、昔は炭を使っていたと思う。 こたつは、今は電気が点いているところに炭を入れていたんじゃないかな。 バーベキューコンロは肉が焼けるくらい暖かいから、そういう物があって炭を燃やしていたんじゃないかな。 確かに、家の中で炭を燃やしていたら、火事になってしまうんじゃないかな。煙とかも出るし危ないんじゃないかな。 ぼくの家には薪ストーブがあって、火が出ているけれど、危なくないようにしているよ。 懐炉もそうだけれど、もしも炭をそのまま燃やしたら火事になってしまうかもしれないから、危なくないように何か工夫して、炭を使っていたんじゃないかな。 <p>〈なかりたくさと思う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 今よ道具が着ていたんじゃないかな。 別の道具があったんじゃないかな。 きつと懐炉と同じように、道具を工夫して、炭を使って暖まっていたんじゃないか。 <p>* どのように「危なくないように工夫して」を考えていけば、仮定する思考の方法を使って、既習事項である自分の認識や経験をもち出して考えていると判断する。</p>	<p>【働き掛け2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指示「学習問題について、どのように考えますか。予想を発表しましょう」 ※観点を樹形図で分類・整理して板書していく。(2P参照) ○補助発問「どうしてそのように考えたのですか」 ※「炭」という考えが出たら次の働き掛けを打つ <p>【働き掛け3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※「懐炉」と「バーベキューコンロ」の写真を提示する。 ○説明「なるほど。炭を使えば暖かいと考えるんですね」 ○発問「でも、家の中で炭を使ったら危ないですか」 ○発問「今、みんなは学習問題についてどのように考えていますか」
<p>3 考えを確かめるために必要な情報と、情報を集める方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 炭を使ったこたつやストーブがあったことが分かればいい。 どんな道具があったかが分かればいい。 どういう工夫をしていたのか分かればいい。 歴史博物館の人に聞いて確かめたい。 	<p>【働き掛け4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○説明「なるほど。みんなはこのように考えるんですね。本当にそうなのですか」 ○発問「どんなことが分かればみんなの考えを確かめられそうですか」「どのような方法で調べたらよさそうですか」
<p>4 昔の火鉢とこたつを観察したり、ゲストティーチャーに聞いた上で、昔の火鉢とこたつの使用方や工夫、効果を調べる。</p> <p>Q 使わなかった炭を使ったこたつやストーブがあったと考えているんですが、そういう道具</p>	<p>【働き掛け5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○説明「今日も何とみんなのために博物館の○○さんが来てくれています」 ※ゲストティーチャーを紹介する ○発問「何か聞いてみたいことはありますか」

<p>はありましたが。たつやストーブと同じような ・やっぱ昔もこんな形が違うぞ。 ・でも、今と少し形が違うぞ。 ・これがこたつだったのか。これは火鉢という んだ。やって使っていたんですか。 Q 火鉢には何で粉みたいなのが入っているんで すか。 ・危なくないように工夫して炭を使っていたん だ。すごくいいな。 Q 炭がなくなったらどうしていたんですか。 Q 炭は暖かく過ごすためになくてはならないも のだった。ちは、炭を大切に、いろいろな 道具に使って暖まっていたんだ。</p>	<p>【GT】 ※昔の道具を提示する。(実物) ※ゲスト・ティーチャーから対話形式で話をし てもらおう。(質問⇔答え) (火鉢・こたつの説明・使い方や工夫、それ を使っていたころの暮らしの説明) ※昔の人々の知恵や工夫が伝わるように話し てもらおう。 ※実際に火鉢とこたつを観察させたり、当た らせたりせたりする。</p> <p>○発問「昔の人にとって、炭ってどんな物だ ったのでしょうか」 ○説明「どうですか。学習問題は解決できま したか」</p>
<p>5 学習のまとめとして、分かったことや考えた こと、思ったことを説明する。 ・昔の人は、暖かく過ごすために炭を大切 にして、いろいろな道具に使っていたことが 分かった。昔の人たちも今(わたしたち)と 同じように、火鉢やこたつを懐炉使って、暖 かく過ごしていたんだ。炭をいろいろな な道具で使ったり、危なくないように使った りして、昔の人の知恵や工夫はすごいな と思った。 * こゝで、<u>このよ</u>うに、これまでの学習で考 え分た、<u>こゝ</u>や、調べて分たことから、自 ら、<u>こゝ</u>や、考えたこと、や、思ったことを説明でき たら、<u>こゝ</u>や、帰納的に見る思考の方法を使 って、昔の人 々の知恵や工夫と自分の生活とを結び付け ると判断する。</p>	<p>【働き掛け6】 ○発問「みんなはどんなことが分かりました か。どんなことを考えましたか。ど んなことを感じましたか」 ○指示「最後に、分かったこと考えたこと、ま ったことを必ず入れて、学習の、ま と思とめをワークシートに書きま しょう」「自分でキーワードを決 ましょう」</p>

(3) 評価

- 昔の暖房器具と人々の暮らしの様子に見られる知恵や工夫が分かり、それらを自分の生活と関係付けてとらえることができたかどうかを、ワークシートの記述や発言から評価する。

昭和17年の冬の新潟の写真と、2月の平均気温を提示した後、この当時の新潟市の家庭では、電気を使った暖房器具や石油ストーブがまだなかったという事実を提示し、驚きや疑問からどのような学習問題がつけられそうか問う。